



2023年11月10日

各位

会社名 株式会社ラックランド
代表者名 代表取締役社長 望月 圭一郎
(コード番号：9612 東証プライム)
問合せ先 取締役管理本部長 鈴木 健太郎
(TEL：03-3377-9331 (代表))

(訂正)「2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

2023年8月14日に公表いたしました「2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において、一部訂正すべき事項がありましたので、お知らせいたします。なお、経営成績・財務諸表の数値情報に関する訂正はございません。

記

1. 訂正の理由

「2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において、記載内容の一部に不備がありましたので、これを訂正します。

2. 訂正の内容

訂正箇所には下線を付して表示しております。

1. 当四半期決算に関する定性的情報

- (1) 経営成績に関する説明 の6ページから7ページ

(訂正前)

(参考資料)『部門別売上高及び概況』

部門別の売上高及び概況は、以下のとおりであります。

《部門別売上高》

関連部門の名称	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (%)
スーパーマーケット関連部門	5,826	2,638	△54.7
フードシステム関連部門	10,926	19,029	74.2
保守メンテナンス部門	1,218	1,258	3.3
計	17,971	22,926	27.6

《スーパーマーケット関連部門》

スーパーマーケット関連部門につきましては、スーパーマーケット販売統計調査（スーパーマーケット協会3団体）によりますと、2022年はコロナ禍も比較的落ち着いて、ウィズコロナの生活スタイルが定着し、巣ごもりが減って外出の機会が増えたことなどもあり、売上高の伸び率（前年比）はほぼ前年並みとなっておりましたが、昨年秋口から人の動きが活発になってきており、2023年は前向きな改装計画なども出てきております。引き続き、当社グループは経済環境に大きく左右されず、あらゆる営業機会を逃さないために、各グループ会社の強みを活かして、設計や内装施工だけでなく、給排水・空調設備工事や電気設備工事等、対応できる事業領域やサービスの拡大を図ってまいります。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は26億3千8百万円（前年同四半期比54.7%減）となりました。

《フードシステム関連部門》

フードシステム関連部門につきましては、外食産業市場動向調査（日本フードサービス協会）によりますと、コロナ禍で2020年の店舗売上高の伸び率（前年比）は大きく落ち込み、当社グループの主要顧客である飲食店、小売店、商業施設、ホテル等の営業環境は厳しく、当社グループの受注においてもその影響を受けましたが、2021年以降はテイクアウトやデリバリーなど新たな需要が生まれたこともあって、外食産業全体では緩やかながらも回復局面に入り、2022年はさらに回復が鮮明になって、同調査の店舗売上高の伸び率（前年比）は+10%を超え、2023年も好調が続いております。コロナ禍を経て、業態の構造変化も見られることから、当社グループは今後も状況や時代に適応したサービスや付加価値を提供できるよう努めてまいります。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は190億2千9百万円（前年同四半期比74.2%増）となりました。

(省略)

(訂正後)

(参考資料)『部門別売上高及び概況』

部門別の売上高及び概況は、以下のとおりであります。

《部門別売上高》

関連部門の名称	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (%)
スーパーマーケット関連部門	5,826	<u>5,393</u>	<u>△7.4</u>
フードシステム関連部門	10,926	<u>16,273</u>	<u>48.9</u>
保守メンテナンス部門	1,218	1,258	3.3
計	17,971	22,926	27.6

《スーパーマーケット関連部門》

スーパーマーケット関連部門につきましては、スーパーマーケット販売統計調査（スーパーマーケット協会3団体）によりますと、2022年はコロナ禍も比較的落ち着いて、ウィズコロナの生活スタイルが定着し、巣ごもりが減って外出の機会が増えたことなどもあり、売上高の伸び率（前年比）はほぼ前年並みとなっておりましたが、昨年秋口から人の動きが活発になってきており、2023年は前向きな改装計画なども出てきております。引き続き、当社グループは経済環境に大きく左右されず、あらゆる営業機会を逃さないために、各グループ会社の強みを活かして、設計や内装施工だけではなく、給排水・空調設備工事や電気設備工事等、対応できる事業領域やサービスの拡大を図ってまいります。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は53億9千3百万円（前年同四半期比7.4%減）となりました。

《フードシステム関連部門》

フードシステム関連部門につきましては、外食産業市場動向調査（日本フードサービス協会）によりますと、コロナ禍で2020年の店舗売上高の伸び率（前年比）は大きく落ち込み、当社グループの主要顧客である飲食店、小売店、商業施設、ホテル等の営業環境は厳しく、当社グループの受注においてもその影響を受けましたが、2021年以降はテイクアウトやデリバリーなど新たな需要が生まれたこともあって、外食産業全体では緩やかながらも回復局面に入り、2022年はさらに回復が鮮明になって、同調査の店舗売上高の伸び率（前年比）は+10%を超え、2023年も好調が続いております。コロナ禍を経て、業態の構造変化も見られることから、当社グループは今後も状況や時代に適応したサービスや付加価値を提供できるよう努めてまいります。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は162億7千3百万円（前年同四半期比48.9%増）となりました。

(省略)

以上